安永六丁酉歳

聖節

越新津連中

春光の千於も
盗の光ありと
祝しく

立初る三とりの春や　門の松　遊字庵 些兮

三ッ物

何ゟ画や　初日北斗の懸こか　藍水
かし手洗ふぬるむ竹縁　一峯
厨ごそと白髪と祖父のむましく　夕桐

暮興

梅

山梅や戸川徒歩春とえせ　茉洲
ゝ梅や和らく風も香はり　白錦
ね梅や日ふ海にかゝ箱田行　霞竹
待ゆうむ月の花と跳ぬ梅　楓夕
咲かける気ゆ行く流やむ泥湧　田イ王 虚明
匂ひふ含むよほひや未開ね　嵐夕
ど香実や懸の舟北裏添ふ　此中
吹ふ方ふ東風の匂ひや二也梅　素琴

桜

翔霞これ行かすや山桜　夕桐
塩かほや見り八ぢの花あかり　一峯
御運者捻み添てやまんさ姥桜　鶯吾
揚笑妣や媚る桜よも咲お陰達　西之丁 以眺
有明北名み明かけく桜ふ　能州 奇史
ゝよ春も出よく小夕て八重桜　鶯暁

陰もうを咲もみさ夜京ちぐ　把菊
うゑ気と売めく流交さらべ　江楓

申の三
叢庵

大荘居の舎納よこまり此
脈摘と急しかの
翔蒼ころち行う揚と

宮一下白地夏や居の市ちまき　茉洲
障子よ色添わも豆明　夕桐
田舎宮もいつ川しら京の水気て　些兮
揺て繰へよ畠あつ葉　一峯
あ路よふ背とのまん牛の良と咲　嵐錦
星への路も濱の紫もし　露竹
まふも気人まも老のむ川まに梅　楓夕
港れよ浚こ時を縁日　鶯吾
まくもあや春葉の花と立まり　鶯暁
ま結む晒よ灰汁の濁りも　虚明
姉の家かりよ姉の出語まく　嵐夕
帰川もよみあひ好よ棟梁　以眺
大小と柱磨よ在り遠へ　奇史
ままりも少も鍋の逗留　把菊
皆もまし見し贅小掃と入　此中
よ川と日急よまれ涼思ッ色　江楓
咲あふ祝もちらし棟まく　藍水
笠も脈ふ田打畑打　素琴

年元の色ある よ流れの
まと八豆なかり年毎
よもやおやかよ二八ても
おうくゝ

休んでも広がりまゝ
なし北棟分　些兮